

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果について

○実施日：平成31年4月18日(木)

○対象：6学年児童

【調査結果チャート・児童質問紙から】

教科学力

算数は全国平均程度、国語は全国平均をやや下回っている。

学習に対する興味・関心等

国語・算数ともに、平均を下回っている。

「国語や算数の学習が好き・どちらかといえば好き」と回答している割合は、全国平均を約10ポイント下回っている。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という設問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合は、全国平均よりも2.5ポイントほど高くなっており、学習の有用性は感じていると考えられる。

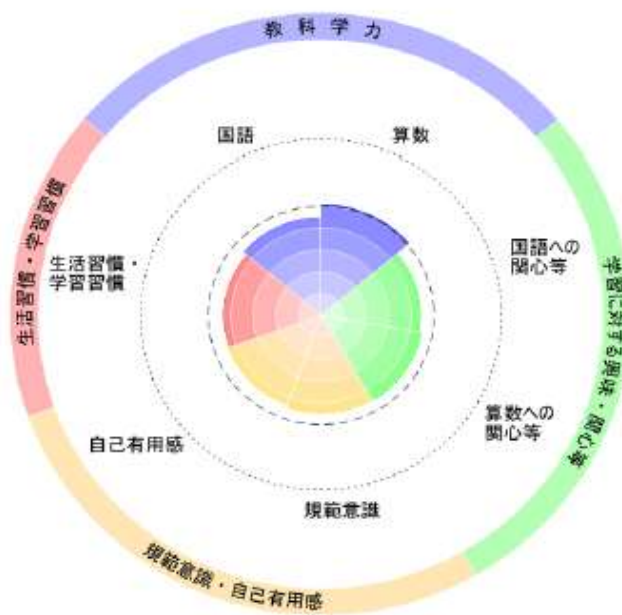
生活習慣・学習習慣

「朝食を毎日食べるか」という設問に対しては、「あまり、全く食べていない」という回答が、全国平均の約3倍を占めている。

また、「規則正しく睡眠をとっているか」という設問に対しては、「あまり、全くとっていない」という回答が、全国平均より5ポイントほど高く、課題点だと考えられる。

「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対しては、

〔児童生徒〕
児童質問紙(全国基準)



児童質問紙(神奈川県基準)

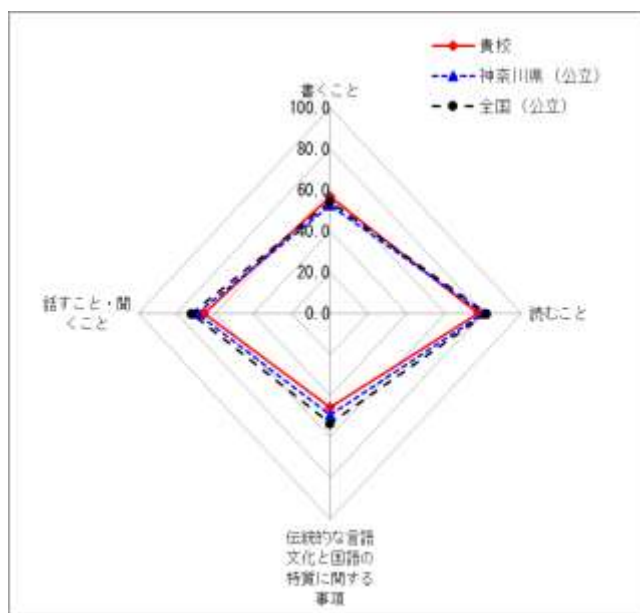


「当てはまる、どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が、全国平均より2ポイントほど高くなっていて、めあてに向かって生活している児童が多いことが分かる。

平日の学校以外の学習時間については、「2時間以上」の割合が全国平均より4ポイントほど高い反面、「30分以下」の割合が全国平均より13ポイントほど高くなっている。

平日の読書時間に関する設問では、30分以上読書している割合は、全国平均が約40%に対して、本校は約24%と、16ポイントも低くなっている。また、「全く読書していない」と回答した割合は約29%であり、全国平均より10ポイントほど高くなっている。普段の読書量の少なさが課題だと考えられる。

【国語について】



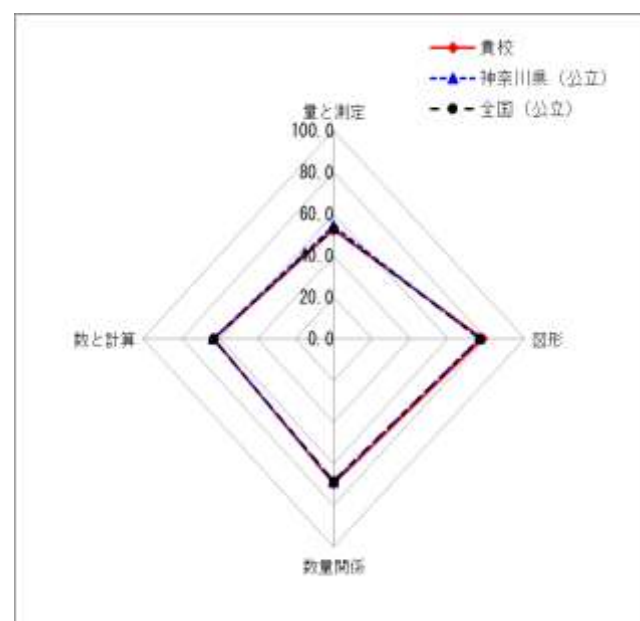
「書くこと」については、全国平均を2ポイントほど上回っている。

他の領域についてはいずれも全国平均を下回っているが、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が8ポイントほど低くなっている。

漢字の書きの問題が、3問中2問、正答率が低くなっている。また、記述問題に対する無回答の割合が高くなっている。

今後は、読書に親しませるとともに、自分の考えを話したり、書いたりする活動を多く取り入れて学習を進めていきたいと考える。

【算数について】



どの領域とも、ほぼ全国平均と同じぐらいである。

「台形について」「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」等の基本的な理解を調べる問題については全国平均よりも高い正答率を示している。

「示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を記述」する問題に対しては、誤答率や無回答率が全国平均よりも高くなっている。

今後は、基礎・基本を確実に定着させることに加えて、思考を深め、その考えを記述させる学習活動を取り入れていきたいと考える。